

発熱外来の運用状況

桜町病院では昨年より発熱外来を設置し、2021年現在までに約2850名が受診しています。発熱外来は一般の診療エリアとは場所を別にして、予約制で行っています。必ず発熱や咳などの症状がある場合は、来院前にお電話でご相談ください。発熱外来では新型コロナウイルス感染症の判別のため、抗原検査やPCR検査を医師の判断で行っています。また、濃厚接触者と特定された方のPCR検査も行っています。抗原検査の結果は約20分ほどで出ます。PCR検査は結果が出るまでに約2日かかり、結果が出次第、病院からお電話でご連絡しています。



ご存知ですか？

桜町病院公式Instagram



2021年4月より、桜町病院の公式Instagramを開始しました！以来週2回程度記事をアップし病院の様々な情報を発信しています。

記事の内容は、整形外科の新しい治療法のご案内、産後ケアの空き状況、検診のご案内、予防接種の予約受付方法などから、栄養科が実際に患者さんにお出ししている好評の手作りお菓子や一品料理のレシピまで様々です。

新型コロナの流行により、なかなか患者さんや地域のみなさんに病院の今を届けることが難しい中、お伝えしたい情報をいち早く載せるようにしていますので、ぜひ一度ご覧いただければと思います。下記のQRコードより桜町病院のInstagramにアクセスできます。

アカウント名は、
@sakuramachi_hpです。
ぜひ、フォローやいいね！をお願いします。



編集後記 新型コロナウイルス感染症は急激に増加した第5波が急激に治まりつつあります。桜町病院では、できる限りの感染対策を施し患者さんに安心して受診していただける受診環境の整備に努めています。お気軽にご利用ください。しばらく休刊していましたが、「さくら」第30号をお届けします。今号では、産後ケア事業や整形外科のヘルニコア治療などを紹介しています。(周)

〒184-8511 東京都小金井市桜町 1-2-20 / TEL042-383-4111 (代) <http://www.sakuramachi-hp.or.jp/>

基本理念

私たちはキリストのように人を愛し 病める人、苦しむ人 もっとも弱い人に奉仕します

基本方針

1. 地域の医療機関や福祉施設と密接な連携を保ち、地域に根ざした信頼される病院運営をめざします。
2. 患者さんの全人的（身体的、精神的、社会的、霊的）ケアを行います。
3. 医療従事者の力を結集した患者さん中心の総合的なチーム医療を行います。
4. 常に自己研鑽に努め、質の高い、安全・安心な医療を提供します。
5. 患者さんの声に誠心誠意耳を傾けます。

Close Up!

桜町病院の産後ケア事業

桜町病院では昨年10月より産後ケア事業をはじめました。

“産後ケア”とは、産後のお母さんの心身疲労の回復や授乳、育児相談などのサポートを行うことです。例えば「授乳が上手くいかない」「乳房トラブルを起こしてしまった」「母乳量を増やしたい」「ミルクの足し方がわからない」「赤ちゃんの体重が増えない」「寝かしつけについて知りたい」「とにかく休みたい」などご要望は様々です。

最近では核家族化や高齢出産の増加、新型コロナウイルス感染症の影響で里帰り出産や退院後のご家族のサポートがなく、産後直後から十分な援助が受けられないケースがあります。産後の体調が回復しないまま



育児の心配事や授乳のお悩みに助産師がお答えします。

育児を頑張っているお母さんも少なくありません。また、子育て交流の場が一時的に閉鎖していたり感染のリスクを考え外出を控えている方も多く、育児相談ができずに悩んでいる方、母親同士の交流の場がなく孤立している方もいます。

桜町病院の産後ケアでは、新生児期から生後4か月未満の赤ちゃんとお母さんを対象に産後ケアを行っています。利用方法は日帰り型と宿泊型があります。

日帰り利用の方は、9時～17時までのご利用で昼食とおやつをご提供いたします。

宿泊利用の方は、9時～翌11時までのご利用で昼食、おやつ、夕食、朝食をご提供いたします。日帰りも宿泊も連続の利用が可能です。



春は桜、秋は紅葉がみられる眺めの良いお部屋でゆっくりお過ごしいただけます。

お母さんの洋服やタオルはアメニティの準備があります。赤ちゃんの洋服、ミルク、オムツ、おしりふきなどは持参していただきます。お母さんのご希望に沿って助産師が育児の悩みを聞いたり、身体的ケアを行います。お預かりした赤ちゃんは病棟スタッフが

常に見守りますので安心してお過ごしいただけます。お母さんや赤ちゃんに寄り添い入院中は安全に快適に過ごせるよう、また自宅に戻った後も自信を持って育児が出来るよう支援していきます。
(南2階病棟棟長 川原田由喜子)

チーム桜町

検査科

検査科は、検査科部長、臨床検査技師11名、事務員1名で構成されています。
検査の仕事は大きく2つに分かれます。ひとつは患者さんから採取された血液や尿などを調べる検体検査。血液中の蛋白や糖・酵素などを測定し臓器の異常を把握したり、血球の数や形態を検査し貧血や白血病などの病気を見つけることができます。輸血をする際には血液型と交差適合試験を行います。細胞を顕微鏡で診て悪性細胞の有無を調べる細胞診という検査もあります。
もうひとつは患者さんの体を直接検査する生理機能

検査。心電図、睡眠時無呼吸検査、血圧脈波、超音波検査などがあります。心電図は不整脈の診断にとっても有効です。超音波検査は各臓器の形や動きをみることで、例えば胆石症・心不全があるかどうかなどが分かります。
また採血も検査科の仕事のひとつです。
休日・夜間の緊急検査に対応できる体制も整っています。
私たち検査技師は、測定機器のメンテナンスの管理を行い、迅速に信頼できる精確な検査結果を提供できるよう心がけています。(検査科長 倉部 忍)

検査技師のいちにち

7:30

8時半採血の患者さんの検査がすぐにはできるよう、検査機器立ち上げ精度管理(測定結果の信頼性を確認する)をおこないます。

8:30

外来採血の開始

一日の中で混み合う時間の1つです。採取された検体の検査をおこないます。診察で結果を報告できるよう、迅速に結果を出しています。緊急報告が必要な結果は担当の先生に直接連絡をしています。

生理検査

予約検査が多いですが、当日緊急検査に対応します。

10:00

輸血検査

血液型と交差適合試験(患者さんの血液と輸血する血液が異常反応を起こさないかどうかの検査)不適合輸血は命にかかわることなので、間違いがないか幾重にもチェックをします。

13:00

病棟へうかがい、採血や生理検査を行います。採取された検体の検査をおこないます。

細胞診

悪性細胞がないか顕微鏡で調べます。結果のレポートを作成、技師間でダブルチェック後、医師の読影にまわります。

15:30

妊婦さんの赤ちゃんの4Dエコーをします。診察ではゆっくりみることができない赤ちゃんの動きやお顔をみられるチャンス!

16:00

翌日の病棟分の検査容器を整え、各病棟へ配布します。検査機器のメンテナンスをおこない、翌日に備えます。



頸動脈エコー検査

栄養科の美味しい&ヘルシー Recipe

監修:管理栄養士 松尾敦子

No.8

茄子の華風酢

なすは夏のイメージがありますが秋なすも旨味がぎゅっとつまっていておいしいです。
なすはカロリーが低い野菜ですが油との相性がよく、油をたくさん吸うため調理法によってはカロリーが高くなりがちです。でもこの料理はレンジで調理するのでヘルシーです!なすは90%が水分なので栄養がないと思われがちですが、食物繊維やカリウム、皮には抗酸化作用のあるポリフェノールが豊富です。

材 料

2人分(1人分25Kcal)

なす 2本
ねぎ 15g(もっとたくさんでもおいしいです)
ショウガ 2g
しょうゆ 小さじ1
酢 小さじ1

作り方

①なすのへたを切って一本ずつラップでつつむ。耐熱皿に並べてレンジ500Wで3分くらい加熱する(ナスがやわらかくなるまで)。



One Point

なすは冷やしても温かくてもおいしいですし、ごま油を少しいれてもおいしいです!

②食べやすく切る。手でさいても。
③ネギ、ショウガはみじん切りにして酢としょうゆと和える。
④なすに③をかけて出来上がりです。

医療のコトバQ&A

第8回「ヘルニコア」

〈回答者〉整形外科部長 増岡 一典

Q. 椎間板内酵素注入療法(ヘルニコア)とはどんな治療法ですか?

A. 腰椎椎間板ヘルニアの新しい治療法です。
具体的には、ヘルニアが突出している障害椎間板に注射針を穿刺し、ヘルニコアという薬剤を注入する方法です。この薬剤が、椎間板髄核内の保水成分を分解し、椎間板内圧を減少させ、神経根の圧排を改善すると考えられています。従来の手術療法と違い、からだを切らないで、注射でヘルニアを縮小させる方法です。海外では、以前キモパインというタンパク質分解酵素を用いた治療が行われていましたが、この薬剤は副作用のため現在使われていません。これらの問題点を改善し、日本で開発されたヘルニコアという薬剤は、タンパク質を分解せず、椎間板髄核の主成分であるグリコサミノグリカンの特異的に分解するため安全と考えられています。
当院でも、このヘルニコアを用いた椎間板内酵素注入療法を導入していますが、すべてのヘルニアのタイプに有効というわけではありません。また薬剤再投与によるアナフィラキシー反応のリスクを避けるため、この治療は一生に1回しか受けることができません。腰椎椎間板ヘルニアの患者様でこの治療に興味のある方は、まずは当科外来を受診し、適応があるかご相談してみてください。

